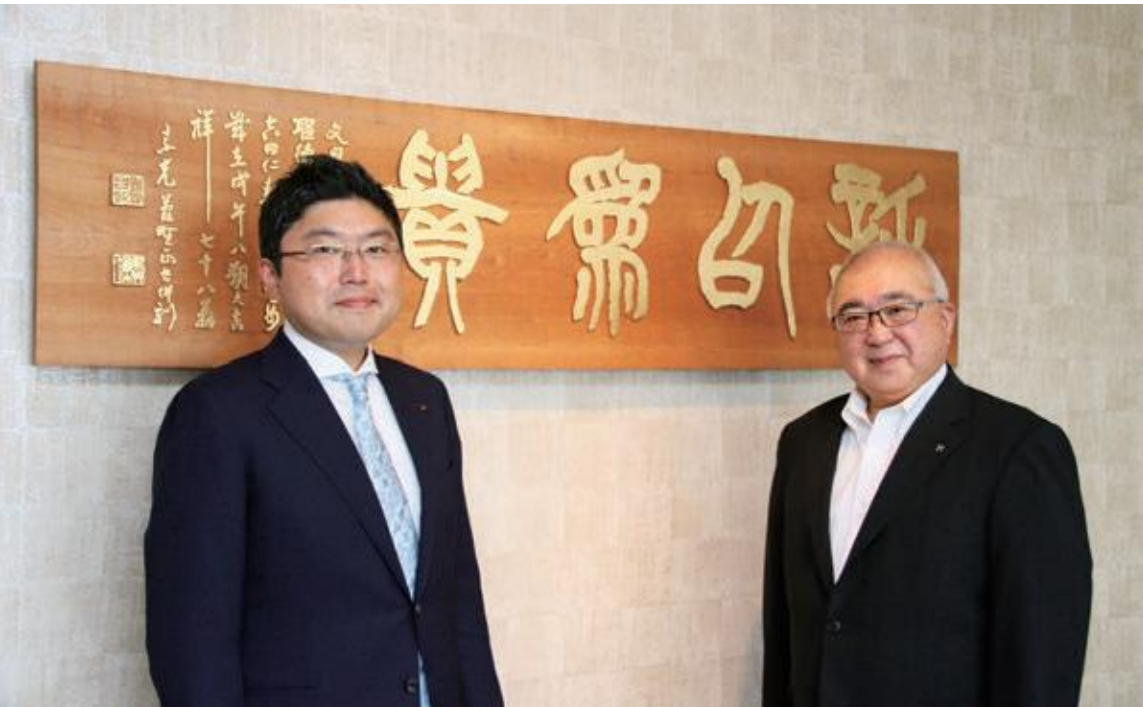


創業100年企業、新たな挑戦開始



役員室に掲げられた社は「和以爲貴（和を以て貴しと為す）」の前で吉田福平会長（右）と吉田昌平社長

1890（明治23）年に紙箱製造を生業として創業した(株)吉田。創業100年企業として新たな挑戦を開始した。「世界のいいものをお客様に、お客様のいいものを世界に」をスローガンに掲げて、変革の先頭に立つ吉田昌平代表取締役社長（40）にその思いをうかがった。

「『CHALLENGE』を前面に掲げたパンフレットが印象的です。

吉田社長 社内の各セクションの社員からなる企画戦略室を立ち上げ制作しました。コロナ禍においてデジタル社会が急速に進み、業界を取り巻く環境が大きく変化しています。このような状況で求められるのは意識改革です。

「事業活動を通じて持続可能な社会の構築に寄与する」「お客様のニーズに的確に答える」「社員が誇りを持って明るく仕事に取り組む」「安定して利益を生み出し社会に還元する」など、私たちが目指す4つの指針を示しました。

合わせて「吉田イコール紙」という企業イメージに加えて、当社が手掛けている幅の広い仕事を、より多くのお客様に知っていただき、一緒に課題を解決します、という思いを込めました。

「時代や社会に変遷に即し事業を展開しています。

吉田社長 多くの取引先、地域の方々に支えられながら、創業以来の紙箱製造に加えて、各種用紙を取り扱う「紙資材」。文具や複合機、システムや備品などを通して企業活動や生活環境の向上をサポートする「オフィスイノベーション&ステーションナリー」。食品などのフィルム包装や効率的な物流を支援する「包装資材」の3つの事業を軸に展開しています。

パンフレットでは、それぞれの事業をより具体的に紹介しています。オフィスイノベーションの案内では、取扱商品をラインナップしDX化に向けた業務改善を提案していま

【吉田家の歴史】 およそ670年前の最上家始祖ス波兼頼の出羽国山形入部に遡る。京都吉田からス波氏を頼ったのが山形永住の始まりと伝えられる。「山形城主ス波家の寄客」として村山郡畑谷村（現在の山辺町畑谷）に居を構え、最上家改易により子孫は帰農する。元禄年間（1688～1704）に同家が第1代と数える利八が、山形城下三日町誓願寺門前で商いを始め、京都から古着類を買って山形に運び大きな利益を上げる。代々栄えて十日町角（現在の紅の蔵）に家屋敷を求め、天明2年（1782）には土蔵に積み重ねた銅銭で蓮華の大水鉢を浄土真宗専称寺に寄進したと伝えられる。文化年間（1804～1818）頃には山形藩秋元家の御用達も務めた。

明治に入り5代二平は副区長や商荷改方取締役に任じられるが、次第に家業は傾く。6代福平の時に生活の支えとしてマッチ箱の製造を始め、活版や製本の技術を修得していた長男恒蔵（7代福平）が、明治26年ボール裁断機1台を求め石けん箱の製造を手掛け家運再興の基礎を固める。大正時代には紙箱、紙袋の製造加工に加えて、包装用品一式、洋紙・板紙・蚕座紙の卸小売へと事業を広げ、秋田方面にまで商圏を拡張した。

昭和に入り、戦時中は吉田飛行機有限会社を設立し飛行機の座椅子、胴体の製造を行う。戦後、紙商を復活させ学習ノート製造に携わるとともに、大阪黒田国光堂（現在のコクヨ株式会社）から帳簿・仕切書・便箋などを仕入れ、山形・仙台・福島にコクヨ製品販売会社を設立、業績は飛躍的に向上する。

（株）でん六の創業者鈴木傳六氏は、1970（昭和45）年に編纂した（株）吉田の『創業八十年』に「私の父が上町で石けんをつくっていたが、その化粧箱を東京から持って来ていた。これでは不経済なので、なんとか山形でつくりたいと考え、活版屋で修業していた7代福平に私の父が必要なものは全て貸すから箱の製造を始めないかと勧めた結果、吉田家で紙箱の製造が始まったのである。…私の事業のものは殖産相互銀行から500万円を借りたことであるが、一番初めにその保証人の依頼に行ったのは吉田家であった。このように鈴木家と吉田家は助けたり、助けられたりの関係である」と寄稿している。

また、『創業八十年』には嘉永4年（1851）に長谷川吉郎治、長谷川吉内、福島治助、佐藤利兵衛、村居清七ら紅花商人が共同で仕立て船が難船し秋田領内の浜に漂着し、5代二平が依頼を受けて積荷の引き渡し交渉に預かるが、秋田藩に拒否され監禁された。二平は山形藩水野家の役人名代として来た以上、役務は果さないことは水野家の対面に関わると腹をかき切る。辛うじて一命をとりとめ、隠匿された紅花の代金を払ってもらうことで決着したという豪気なエピソードも掲載されている。

（株）吉田

本社所在地 〒990-8512 山形市北町1-5-12
 代表取締役会長 吉田福平
 代表取締役社長 吉田昌平
 創業 1890（明治23）年 会社設立1950（昭和25）年
 Tel.023-684-6006 Fax.023-684-6005

CHALLENGE

創業100年企業

新しい挑戦がはじまります。

社会の要請に常に**変化**できる企業

- 1 事業活動を通じて持続可能な社会の構築に貢献いたします。
- 2 さまざまなお客様のニーズにお応えいたします。
- 3 社員が誇りをもって働ける環境づくりに取り組みます。
- 4 ステークホルダーの皆様と一緒に地域社会との共生を実現します。



「CHALLENGE（チャレンジ）」を前面に掲げたパンフレット

す。また、オフィス移転や顧客とコラボした新商品開発のサポート。さらに当社の遊休スペースを活用し新たに取り組み事業も紹介しています。

—2021年8月に社長に就任し3年目を迎えます。

吉田社長 父（吉田福平代表取締役会長）から「変化の時代には責任を持って会社の将来を担う若い力が必要だ。思い通りにやりなさい」と背中を押されました。

東京から戻り入社したのは、東日本大震災から2カ月後の2011年

5月です。仙台支店の在庫の大半が崩れ、漁業関連の包装資材を納入していた大手水産物加工会社が壊滅、原発事故の放射能汚染で福島県内の取引先が休業等に追い込まれ、当社も大きな打撃を受けました。

一方で、当社は100年を超える歴史の中で、幾多の困難を乗り越えてきました。流通業を主体事業として、お客様や社会に足りないもの、社会の発展のために必要な商品を届けるという、使命をあらためて肝に銘じています。社会から永続的に必要とされる企業を目指し、社内一丸となってチャレンジしていきます。